

ごあいさつ



三宅 徹

連携機関

大日本印刷株式会社研究開発センター長

女性研究者が、結婚・出産・子育てなどのライフイベントがあっても、途切れることなくキャリアアップをしていける環境を構築するために、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業をスタートいたしました。

本事業に民間企業として参加させていただいていますが、利益を追求するなかで女性が活躍する仕組みを作り上げていきたいと思っています。企業では、ライフイベントにともない勤務時間等の制約を受けることにより、女性研究者のキャリアが中断されることもしばしば発生してきました。ただ、一方で、ライフイベントを通じて、女性でしか味わうことのできない貴重な経験が財産となっているはずで

す。研究開発センターとしては、女性の視点を活かすことにより、従来にはない研究開発の成果を創出することを期待しています。女性が、女性の未来を自ら考えて、実現していく。そのことにより、男性目線ではなかなか達成できないような、よりよい社会を築くとともに、女性研究者の研究力の向上、さらには、継続的なキャリアアップにつなげることができたらと思っています。

そのために、サービスデザインという手法を用いて、共同研究するテーマを提案していきたいと考えております。このサービスデザインという言葉は、なじみがない方もいらっしゃるかもしれません。一般的には、モノを購入した時やサービスを体験した時に、そのモノやサービスの機能、すなわち「便利だ」とか、「使いやすい」といったことに着目して開発を進めます。ところが、サービスデザインは、機能に着目するわけではありません。モノを使ったり、サービスを受けたときの予期せぬ感動や感謝の気持ちを提供しようという考え方です。

本事業では、女性が内面に持っているものを掘り下げて、女性の目線で、世の中が必要としているものを立案し、実現していこうというプロジェクトを進めております。11月よりワークショップをスタートしており、自己啓発合宿などを踏まえながら種々のサービスデザインの検討を3機関の女性研究者をコアメンバーとして、他機関の女性研究者や地域の方々も加えながら進めていく計画です。

本事業から未来の生活者にとってより良いものを生み出すべく努めて参ります。連携機関及び関係各方面の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。